

がん研究所・共同研究特別セミナー

演者： 原田 守 先生
島根大学医学部・微生物免疫学講座(免疫学)教授

演題： 癌ワクチン療法から新たな癌免疫療法へ
immunogenic cancer cell death を目指して

日時： 11月18日(水) 午後5:00 - 6:00

場所： がん研究所 会議室(1階)

近年の腫瘍免疫学の発展によりT細胞に認識される癌関連抗原が多数同定され、癌ワクチン療法や癌反応性T細胞を用いた特異的癌免疫療法の臨床研究が国内外で実施されている。演者も、T細胞に認識される新規癌抗原を同定し、また、前立腺癌に対するペプチドワクチン療法を実施するために、癌ワクチン療法に用いる抗原ペプチドを同定してきた。さらに、癌ワクチン療法を受けた患者内で生じた免疫応答の解析も行ってきた。セミナーの前半では、癌ワクチン療法に伴うこれらの研究結果を紹介したい。

一方、癌反応性キラーT細胞に基づく治療法にも限界がある。特に、前立腺癌や乳癌では、HLA クラスI分子の発現率が低いために、キラーT細胞の誘導・移入だけでは十分な抗癌効果は期待されず、新たな治療法を工夫する必要がある。演者は、現在、免疫応答を伴う細胞死である「immunogenic」cell deathを癌細胞に誘導する抗癌剤を用いた癌治療モデルや、自然免疫レセプターである toll-like receptor (TLR) が癌細胞にも発現していることに基づき、TLR リガンドを用いた癌治療の基礎的研究にも取り組んでいるので、これらの研究についても紹介したい。

後援：金沢大学十全医学会

連絡先：がん研究所・免疫炎症制御 須田 貴司(265-2732)